

問題提起 「どうせ死ぬのになぜ生きる」

はじめに 生死一如と云って一つなのです。そのことがなかなか頂けません。そこに求道の難しさがあります。

日頃の支え 私たちの毎日の生活は比較しながらの生活です。相対的価値観と云われますように価値を付け、損か得かの日暮です。そうなりますと都合の良いときは当たり前にし、悪いときは、空しさが残ります。

無条件 考えてみますと、私そのものは無条件に生かされています。都合の良い時も、悪い時も、いつもと変わらず無条件に生かされています。間違っているのは自分の思いだけが、自分の都合に会っていないだけです。

佛のいのち。
 帰依となりたもう
 その深は、長さ幅さの
 その幅さは、人間の生活。
 その長さは、個人の一生、
 幅もあれば、深さもある。
 人生は長さだけではない。

(金子大栄)

日頃の支え 毎日の生活は比較しながらの生活です。相対的価値観と云われますように日々価値を付け、損か得かの日暮です。そうなりますと都合の良いときは当たり前にし、悪いときは、空しさが残ります。

深さ 長さ・幅さは比較の世界です。どちらも計量できる「いのち」です。人生の『長さ』とは年齢です。人生100年と云はれる時代になりました。『幅(ひろさ)』は、学歴とか、名誉、地位、財産と云ったものでしょう。

それに対し「深さ」とは、比べることも、量る事の出来ない「いのち」です。

先に在る 世間は、「する」＝「何かが出来る」という尺度で比較し評価されています。しかし、実はそれに先立って「ある」＝「そこに先だって存在している」と云う事実があるのです。現代の私たちは、「ある」ということに価値を見いだすことが出来ないのです。

ですから、例えば病気や事故で、老人なんかが体の自由がきかなくなったりしますと、社会的価値がないと切り捨てられてしまう。それらは、「する・何かが出来る」ことだけに価値を認めて、「ある・そこに存在している」ことの尊さに気がついていないのです。

大切なもの 星野富弘さんと云う作家がおられます。その方に次のような言葉があります。

嬉しかった
 生きるのが
 知ったとき
 ものがあると
 いのちより大切な
 苦しかった。
 生きるのが
 思っていたとき
 いのちが大切だと
 大切なもの

(星野富弘)

星野さんは、「いのちより大切なもの」を具体的にやっしやっしてはいますが、金子先生の「その深さは、長さ幅さの幅依となりともう佛のいのち」ということでしょう。その具体的な言葉が「南無阿弥陀佛」です。

念 佛 「南無阿弥陀佛」です。わ念佛とは阿弥陀佛のみ名を称えることです。南無阿弥陀佛は人間の言葉であり佛です。(佛の願い)が言葉となった佛です。